

1年1組

どろんこあそびをしよう！
～すな・つち・みずをつかって～



1年「どろんこあそびをしよう！」

～すな・つち・みずをつかって～

指導者 北 畑 弘 美

1. 単元目標

砂、土、水を使った遊びに関心をもち、その面白さや自然の面白さに気づき、泥んこ遊びをみんなで楽しむことができるようにする。

2. 指導にあたって

<子どもの様子>

1年1組の子どもたちは、とても元気で活動的な子どもが多い。

しかし、6年生のペアさんに遊んでもらうことが多く、自分たちだけでなかなか遊ぶことができなかった。そんな子どもたちが、自分たちで遊びはじめたのは5月中ごろ。それでもそれは、アスレチックやブランコ、ボール遊びが主で、砂場で遊んでいる子どもは殆どいなかった。学習においても、指先にのりをつけてプリントを貼り付けるときなど、恐る恐るのりの容器に指を入れ、貼り終わるとすぐ手を洗いに行ったり、クレパスを使った後、必ずと言ってよい程手を洗いに行きたがったりする子が多かった。また、幼稚園や保育所で砂遊びを経験している子もいるが、普段の生活では、砂や土を使って思う存分遊ぶことはない子どもたちであった。

しかし、6月の初め、朝の会の「おはなししたいこと」コーナーで、「昨日、泥だんごを作って三国一の近くへ置きました。」と話した子どもがいた。その子の話に「どこで作ったのですか?」「どうしてそこへ置いたのですか?」と質問する子どもたち・・・この話をきっかけに休憩時間に砂場に行き、遊び始める子どもたちが現れた。しかし、なかなか泥だんごはうまくできず、少し諦めかけていた。

子どもは本来砂遊びや土遊びが大好きである。それは可塑性あり、全身活動ができ、野外活動ができるからである。諦めかけたのは、休み時間だけでは、道具や時間が十分でなかったからであろう。そこで、「どろんこあそびをしよう!」という単元を設定し、思う存分泥んこ遊びを体験させたいと考えた。

<こんな子どもに育てたい> ～願いと具体的な手だて～

この単元では、活動の場所と時間を十分保障する中で、子どもたちの砂、土、水に対するはたらきかけをじっくり見つめながら、子どもたちの思いや願いを大切にしながら展開していきたいと思っている。

①砂、土、水に喜んで触れる子ども

砂場とその近くにある土の山で十分な水を使い、手足が汚れることを気にせず、思い切り活動させたい。そのために、汚れてもよい服を着用させる。そうすることで、服の汚れを気にせず、存分に砂や土や水に親しみながら遊ぶことができると思っている。

②友だちと一緒に夢中になって活動できる子ども

子どもたちは、作りたいものが同じ仲間が集まって一緒に活動しようとするであろう。そして、自分の作りたいものを作っていく中で、「川をつなげよう。」「もっと大きな山を作ろう。」などと友だちとのかかわりを更に広げ、協力しながら活動をしていってほしいと願っている。そのために、場に応じた励ましやアドバイスなどをしながら、指導者自身も一緒になって活動し、子どもたちの活動を見守っていききたい。

③自分の考えた方法で遊べる子ども

子どもたちには、自分で考え、作りたいものを自由に作らせたい。そのため子どもたちが使いたいものは、できるだけ自分で準備させるようにする。また、スコップやバケツ、じょうろなどは学校にあるものを使い、子どもたちの思いを実現できるよう支援したい。その際、道具の使い方や遊ぶときのルールについて、みんなで話し合っておきたい。

④遊ぶ面白さや自然の不思議さに気づく子ども

本単元は、学習指導要領生活科の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を軸とした単元である。具体的な活動や体験そのものが目標であり、内容であり、方法であるとされる生活科において、思う存分泥んこ遊びに浸ること、そのものが本単元のねらいともいえる。

ここで言う、遊ぶ面白さとは、「遊びに浸り、没頭する遊び自体の面白さ」「友だちと一緒に遊ぶ面白さ」である。自然の不思議さとは、「自分の見通しと事実が異なったときに生まれる疑問」或いは「目に見えないものはたらきが見えてくる驚き」「自然の中にあるきまりの発見」などである。実際には、砂、土、水を使って泥んこ遊びをして、「身の回りの自然のはたらきや身近にあるものを利用して遊ぶことができる。それらを使えば楽しい遊びを自分たちで作り出していける。」ことを実感的に捉えられるようにしたい。

⑤自分たちで後片付けができる子ども

1年生の子どもたちは、活動（遊び）に熱中すると、その後の後片付けがおろそかになってしまうことが多い。そこで、自分たちが使ったものについては、自分たちで元の場所に戻すという習慣づけをしたい。片付けやすいよう、用具ごとに入れる箱を準備したい。

⑥楽しかったことや気付いたことを表現することができる子ども

子どもたちの楽しかったことや気付いたことを他の人に伝えたいという気持ちを大切にしたい。そのために、楽しく遊んだことや気付いたことを絵に表したり、話したり、文に書かせたりしたい。活動後に「はっけんカード」をかくだけでなく、それぞれの子どもが思い、発見したことを発表、交流し、学び合うことも大切にしていきたい。それは、そうすることを通して、気づきの質も高まってくると考えるからである。

また、見つける（発見する）、比べる、例えるなどの学習活動も取り入れ、表現力を高めていきたいと考えている。

⑦比べる、繰り返す、試すなどの活動ができる子ども

「比べる」ことで違いや共通点、或いは変化に気づき、「繰り返す」ことで「いつもそうかな」「どうしてそうなるのかな」という興味や疑問が生まれてくる。また、「試す」ことで「いつもこうなる」「今度はこうなる」といったきまりや法則性に気付くことにもつながってくる。こうした体験活動を意図的に取り入れていくことで、「自然の不思議さ」は勿論、その発展として「科学的な見方・考え方の基礎」の小さな種を育むことに繋がっていくと思われる。

子どもたちは、遊びに没頭する中で、見つける（発見する）・比べる・繰り返す・試すなどの活動を重ね、その過程で多くのことを学んでいく。

生活科の目標である自立への基礎を養う第1歩であると考えている。

<本時について>

本時では、砂場だけでなく土の山での泥んこ遊びも自由にさせたい。

砂場でやっと汚れることを少し気にしなくなった子どもたち（まだ、泥の中に足や体を入れられなくて活動が消極的な子どももいるが）、砂と土の違いについて気づき始めた子どもたちがどのような活動をし、どんなことを発見するだろう。

「プールを作りたい。」「温泉を作りたい。」「レストランごっこをしたい。」などといった子どもたちの多種多様な活動を認め、自分たちのアイデアを活かし

た泥んこ遊びをさせたい。また、子どもたちの「水をいっぱい使いたい。」「おうちから持ってきた道具を使いたい。」という願いもかなえてやりたい。

かたくて子どもの手に負えなかった土の山も掘り起こして自由に使えるようにし、水は、ホースを使い常時流し続けたい。可塑性のある土の山、砂場、溢れ流れ出す水の中で、どのような活動をするか楽しみである。

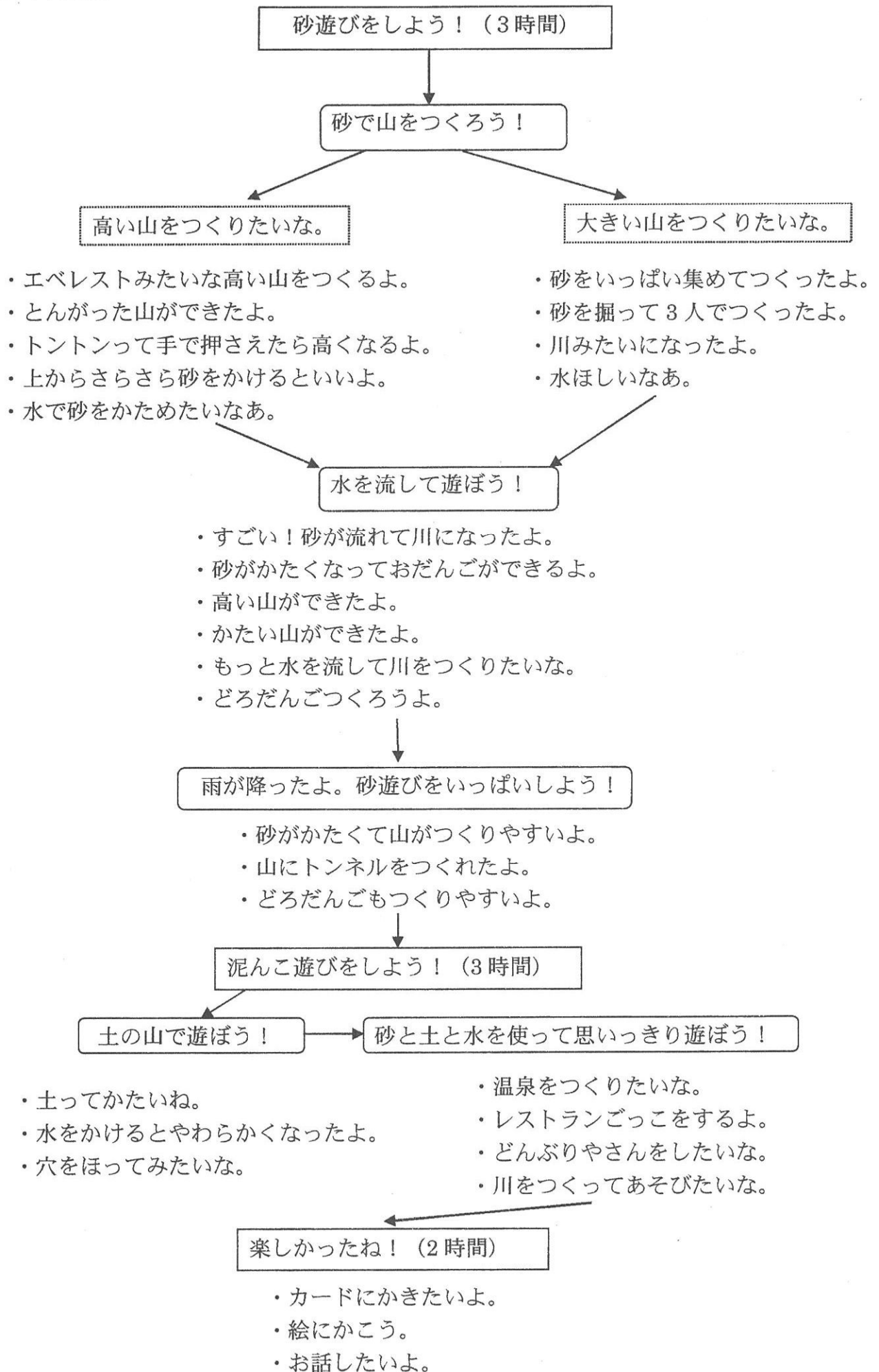
その子なりの活動には、その子なりの良さが出るであろう。その良さを発揮できるように、個に応じた支援を行い、伸び伸びと活動させたい。それぞれの子どもの思いやこだわりを大切にしながら、やりたいことを精一杯やらせてみたいと思う。また、活動を振り返る場も設定し、楽しかったこと、発見したことを出し合う中で、できるようになった自分や友だちの良さに気づき、一つのことをやり遂げた活動の喜びも味わわせたい。そして、今後、人と人とののかわりや自然とののかわりを大切に、自らの生活をより楽しく工夫していける子になってほしいと願っている。

そして何よりも、今まで泥んこ遊びに消極的だった子が、体全体を思い切り使って泥んこになって遊べるようになっていってほしいと思っている。

3. 指導計画（8時間＋α）

第1次 砂遊びをしよう！	3時間
第2次 泥んこ遊びをしよう！	3時間（本時 2/3）
第3次 楽しかったね！	2時間

4. 単元構成



5. 学習活動における評価規準

次 (時間)	ねらい・ 学習活動	ア生活への関心・ 意欲・態度	イ活動や体験に についての思考・表現	ウ身近な環境や自分 についての気付き
1次 (3)	砂を使った遊 びに興味をもち、楽しんで活動する。 ・砂遊びをする。	砂遊びに関心をもち、進んでいろいろな遊びをしようとしている。 友だちとかかわりながら、楽しく遊ぼうとしている。 後片付けができる。 (行動・態度・カード)	砂遊びを工夫することができる。 友だちと協力しながら活動ができる。 比べたり、試したり、見立てたりして遊びを工夫している。 (行動・発言・カード)	雨の日の砂場の様子 と晴れの日の様子が違うことに気付いている。 (つぶやき・カード)
2次 (3)	泥んこ遊びに興味をもち、楽しんで活動する。 ・砂、土、水を使った遊びをする。	泥んこ遊びに関心をもち、進んでいろいろな遊びをしようとしている。 友だちとかかわりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。 後片付けができる。 (行動・態度・カード)	泥んこ遊びを工夫することができる。 友だちとかかわりながら、体全体を使った活動ができる。 比べたり、試したり、見立てたりして遊びを工夫することができる。 使ってみたいものを見つけようとしている。 (行動・発言・カード)	砂や土、水を利用して遊べることに気付いている。 砂と土の違いに気付いている。 友だちと協力して、遊びを作り出す面白さに気付いている。 自然の中のきまり、自然の不思議さに気付いている。 (行動・発言・カード)
3次 (2)	楽しかったことを自分なりの方法で表現する。 ・絵や文などで楽しかったことを表す。	楽しかったことを自分なりの方法で表現しようとしている。 (行動・態度・カード)	楽しかったことや工夫したことなどを伝えることができる。 (発表・作品)	友だちとかかわって遊ぶ楽しさや友だちのよさや自分のよさに気付いている。 (カード・発言)

9. 学習活動の流れ

(1) 本時に至る学習

第1次 砂遊びをしよう！

○高い山を作ろう！

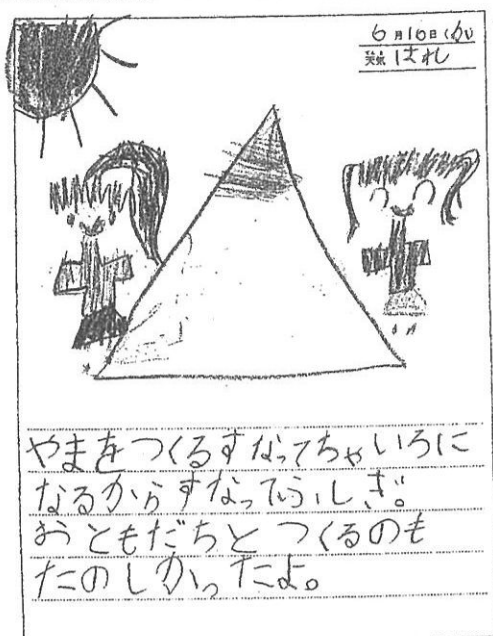
朝の会の「おはなししたいこと」コーナーで「泥だんごを作って三国一の近くに置いてきました。」という話から、泥だんご作りに興味をもった子どもたちだったが、なかなか思うように作れず諦めかけていた。その泥だんご作りをきっかけに「泥んこ遊びをしよう！」の単元に入ろうと考え、「砂場に行って砂遊びをしよう！」と投げかけた。

早速、運動場へ走り出した子どもたち。砂場に入って思い思いに砂の山を作り始めた。



「今日は、高い高いお山を作ろう！」と呼びかけたため、子どもたちは何人か集まり友だちと力を合わせて高い山を作り始めた。

そのうちに、「掘っていったら砂が黒くなってきたよ。」「砂はさらさらで、砂って不思議。」「手でばんばん押さえたら高い山ができるよ。」「白い砂と茶色い砂と交代交代したらふわふわになったよ。」「砂をいっぱいかぶせたのに落ちてきます。」と砂について色々発見していった。そして、「また、昼休憩に続きを作るんだ!」「友だちと作るの楽しかったよ。」「こんどは、水を使って遊びたい。」という声も聞こえてきた。





○砂場で泥だんごを作ろう！

「高い山をつくろう！」の活動の後、2年生の女の子が「先生、学校へ来る途中泥だんごを見つけたんよ。1年生に見せに行ってもいいですか。」と話しかけに来てくれた。休憩時間に砂場で泥だんごを作っていた1年生を見かけて、先輩として見せてやろうと思ってくれたに違いない。

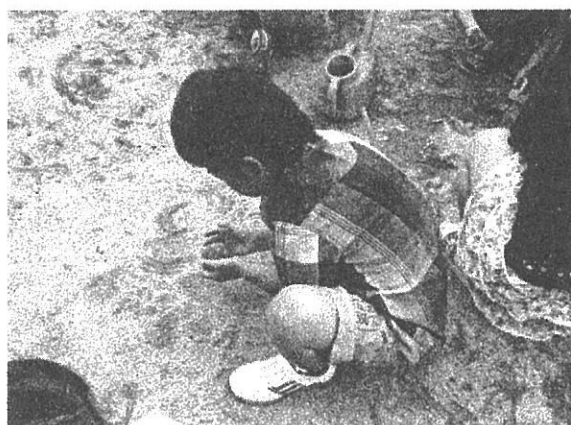
翌日、朝の会に来てくれた2年生が、「これは、学校へ来る中、見つけた泥だんごです。」と言いながらティッシュを敷いた箱から大事そうにつるつるの泥だんごを出して見せてくれた。その泥だんごを見た1年生は、「わあ、まんまる。」「つるつるや!」と言いながら「どこで見つけたんですか。」と質問した。「デイリーの駐車場の近くです。」「どんなところですか。」「駐車場の近くの草のあるところです。」という会話の中に、「それ、ぼくの作った泥だんごや! 三国一の原っぱに置いといた泥だんごや!」という声。どうやら、その泥だんごは1年生の子どもが朝の会で話していた泥だんごらしい。

丸くつるつるにできていた泥だんごを見て、子どもたちの消えかけていた泥だんご作りの意欲に再び火が灯ったようだった。

「みんな、泥だんご作りたい?」という指導者の投げかけに、大きく明るい声で「作りたい!!」と声を上げる子どもたち。早速、朝の会が終わるとそのままみんな運動場に出て行った。



朝の会の興奮冷めやらない子どもたちは砂場に走って行き、砂を手にとってだんごを作り始めた。泥だんごは水がなければ作れない。「今度は水を使って遊びたい。」と言っていた子どもたちの思いと「泥だんごを作りたい。」という思いが重なり、活動に没頭する子どもの姿が見られた。

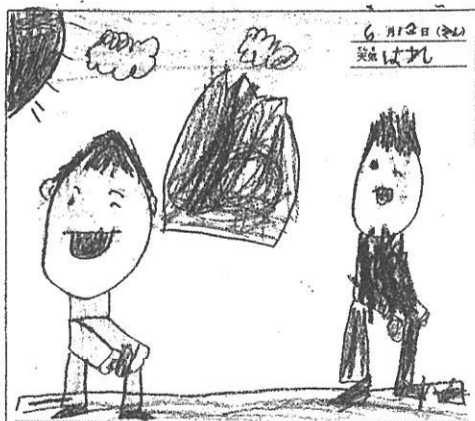


砂を掘り、その中に水を入れて混ぜ、だんごを作る子どもたち。ぎゅっと手で固めるとだんごがかたくなり、作りやすいと発見していった。更に、かたくなっただんごに乾いた砂をかけると良いということも発見していった。

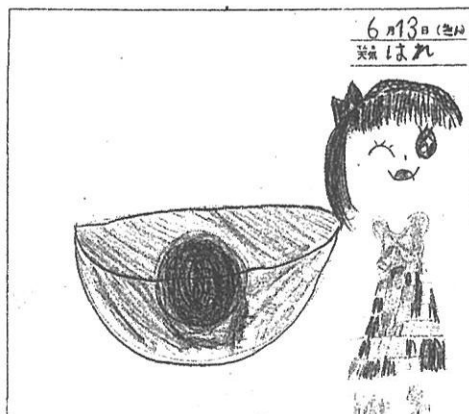
でも、その砂だんごは、お皿にのせようとするとつぶれるし、ちょっと時間が経つとこわれてしまうことにも気付いていった。

なんとかつぶれないつるつるの泥だんごを作りたいと思った子どもたちに、最初に泥だんごを作って三国一の近くに置いてきた男の子に作り方をもう一度聞いてみようとして投げかけた。

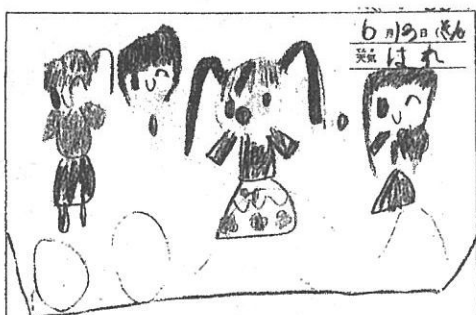




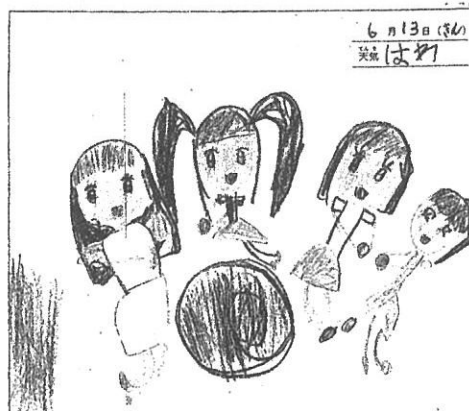
でうんごもつたよだけとやまは
われちよりうつくしめあんなにうすたより
だけとばくちついてもいいでもこわれ
てはかりたんだよだんごつた
たのしかっただけとなんでこわれな



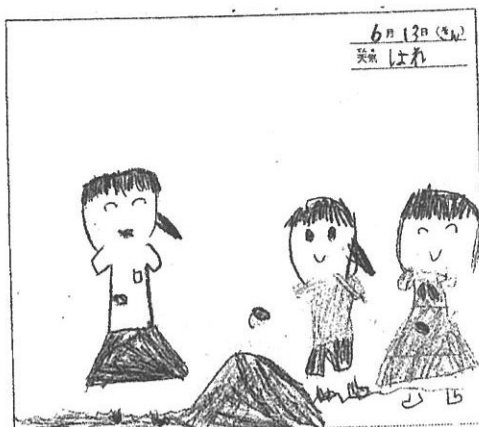
どろだんごをつくらよ。
どろだんごをつくってもつ
くてもつぶれました。はじめて
つくりました。



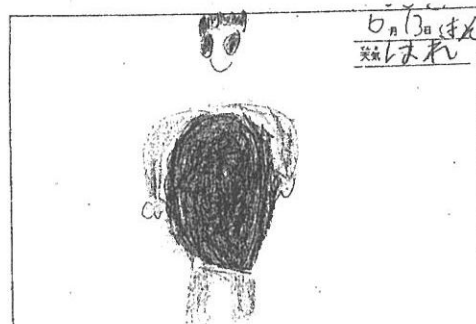
どろだんぞをつったよ。
おさらにいれようと
おもったられれちやうどうい
かな。



どうだんごをついたよ。
でもまるくうまてきませんでした。
つくすつくぶわてこわれま
した。



どろだんごをつくたよ。なん
かいもくずれたよ。なんでか
な。



じょうずにて、まけとつたれた
おどろけ"んちくたふ
ず"ゆう、ち"め"つてかたはつた
れちかたよおしくなるほど

○泥だんごの作り方をもっと詳しく教えてもらおう！

「泥だんごの作り方をもっと詳しく教えてもらおう！」ということになったので、この前の男の子にお話してもらうことになった。

C：ぼくは、ピーマン公園の土を集めて、水を入れて、それを手で丸めてだんごを作りました。それで、乾いた土をまたかぶせてました。そして、置いとくと泥だんごになりました。

T：ピーマン公園の土やって。みんなの作っていたのと違うところある？

C：ピーマン公園で作った。

C：学校やったら、砂場で作ったで。

C：あっ、分かった。砂やったらあかんの違うか？

C：水の多さ違うんと違うか？

C：土と砂と違うで。

C：そうやん。土のほうがいいん違うかな。

T：砂と土と違うの？

C：砂はざらざら。土はさらさら。

C：砂は上は白くて中は茶色いけど、土はもともと茶色い。

C：砂は小さい石があるけど、土は石はないよ。

C：分かった。土で作ったら泥だんごできると思う。

C：土は、さらさらやから、つるつるのだんごできると思う。

T：じゃあ、次は土でだんご作ってみる？

○雨の後の砂場

梅雨に入ってから、まとまった雨らしい雨が降っていなかったため、雨の後の砂場と様子を見ることができていなかった。

久しぶりにまとまった雨が降った翌日、せっかくなので、子どもたちと運動場に出た。

子どもたちは、すぐさま砂場に向かい、「砂、冷たいよ。」「冷たくて気持ちいいよ。」「先生、かたいで。」「わあ、カチカチや。」「と言って砂を掘り始めた。「今日は、高い山が作れるで。」「先生、山作っていい？」と言いながら、すでに山作りを始めている子どもたち。

「かたいから作りやすいわ。」「かたいから、高くしてもこわれへんのやで。」と言いながら山を作っていく。そのうちに、あるグループがトンネルを掘り始めた。「わあ、トンネルできた。」「顔、見えるよ！」と穴から覗き込む子ども。「手と手で握手できたよ。」と喜ぶ子どももいた。

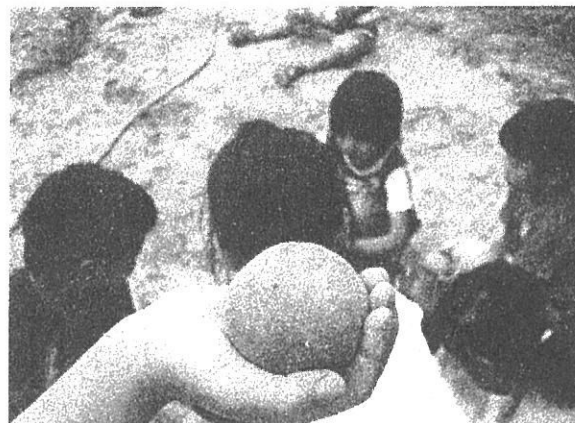
乾いた砂と雨が降って水を十分含んだ砂との違いを実感できたようだった。

第2次 泥んこ遊びをしよう！

○土で泥だんごを作ろう！ ⇔ 泥んこ遊びをしよう！

「泥だんごの作り方をもっと詳しくの教えてもらおう！」の学習の後、別の男の子が、お母さんと一緒にピーマン公園の土で泥だんごを作ってきて、朝の会で見せてくれた。「これがぼくが作った泥だんご、こっちはね、お母さんが作った泥だんご。」と得意げに話す子どもの顔は輝いていた。

さあ、今日はいよいよ土を使っの泥だんご作りだ！みんなやる気満々で運動場に出た。土の山を掘ってそこに水を流しいれる子、土に水をかけて泥を作り丸める子。丸くなっただんごに乾いた砂をかけ、まるで磨いているような子、一人一人泥だんご作りに熱中している。

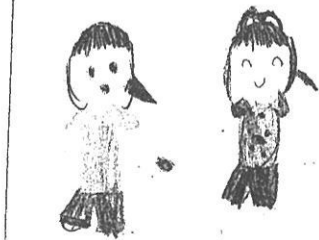


だんご作りに成功した子どもたちが、次々に出来上がっただんごを持って見せに来る。どの子も「どんなもんだい！」と言った顔であった。

そのうちだんご作りに成功した子どもたちが、新しい活動を始めた。

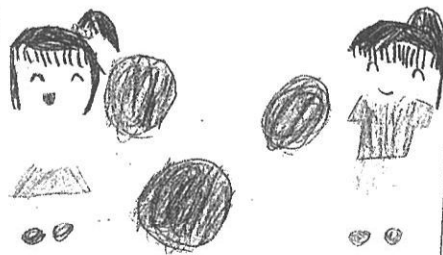
指導者も、「だんご作りを成功させてやりたい。」という願いは大きかったが、土と砂の違いについて気づき始めた子どもたちなのだから、もっと違った活動にも広げていければ良いと思っていたので、見守ることにした。

6月20日(土)
笑はれ



どろだんごをつくらよ。
かちかちのができたよ。さいしは
つくれなかつたよ。すなだちから
つくれなかつたよ。でもつちだ
たからできたよ。

6月20日(土)
笑はれ



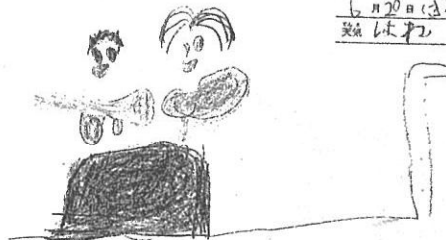
どろだんごをつくらよ。
じょうちをつけたよ。
さいしはつくれなかつたけど
だんだんじょうちになつたよ。

6月20日(土)
笑はれ



どろだんごがよいせいこう
かちかちだつたよ。
つちでつきたよ。
さいしはつぶれたけど
またつきたよ。

6月20日(土)
笑はれ



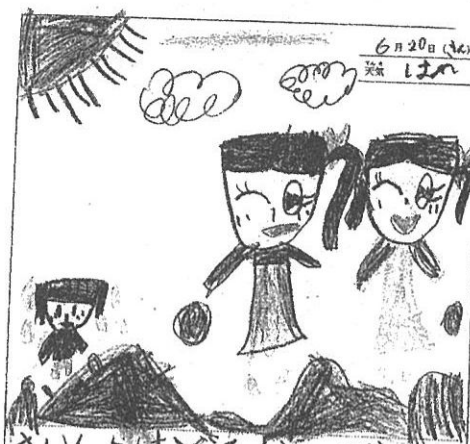
どろだんごをいしたよ。
しろすなをかりしたところ
なるよ。つちをかりしたところ
もどろりこくなるよ。せまな
みちんとつくつたよ。

6月20日(土)
笑はれ



どろだんごをつくらよ。
かちかちのができたよ。
つちでつきたよ。
しろすなをいはいいか
けたよ。

6月20日(土)
笑はれ



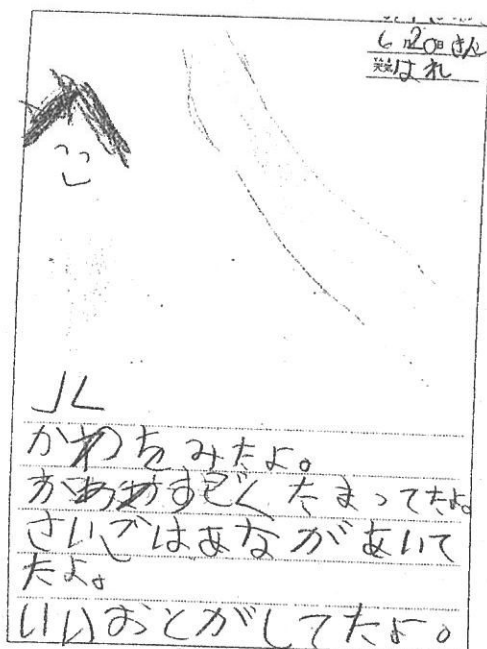
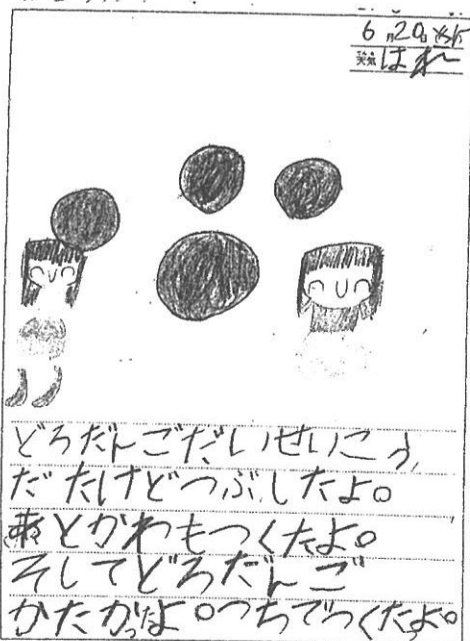
さいしはどろだんご
つくれなかつたけどできた
よ。できたときや、すて
おもつたよ。

砂場に大きな穴を掘り、そこへ水を貯めていく子、深く長く掘って川を作る子、運動場まで水を流す子、土の山の周りを掘ってそこへ水を溜める子。様々な活動があちらこちらで見られるようになってきた。

そして、「わあい、ここプールやで!」「あし温泉」「長い川できたよ。」と口々に言いながら、活動を楽しんでいた。

泥だんご作りをきっかけに始まったこの単元、子どもの様子でも記述したように、「汚れることが嫌い」な子どもたちが、泥水の中に入ったり、服も体もびしょ濡れになったりしながら活動する姿を見られ始めたことは、本当に嬉しかった。





○「おはなしれんらくちょう」から

子どもたちは、6月16日から「おはなしれんらくちょう」を書いている。

「おはなしれんらくちょう」とは、50音を学習した子どもたちが、学校であった楽しいことなどを短い文で書き表し、それを家庭に持って帰り、お家の人から一言返事をもらうというものである。

泥んこ遊びをした日は、殆どの子どもは、泥んこ遊びのことを書いている。勿論、指導者が黒板に書いた一文を書き写すことから始めたが、少しずつ自由に書けるようになってきている。

どろだんごをいっこおとしてかなしかったよ。べんきょうは、たのしかったよ。

おやまをつくったよ。おさらをいれたよ。かっぱもいれたよ。すこっぱもつかったよ。

どろんこあそびは、にがてとってたけど、たのしかったですか。ふくもいっぱいよごれてきていいよ。

ぶうるをつくったよ。すこくみずをつかったよ。すこくたのしかったよ。ものすこくほったよ。

りょうとくん、たくとくんとたのしくすなあそびをたのしめて、よかったね。

どろんこあそびをしたよ。どろみずにあわみたいなのがつがあったからさわってみたらあわがついたよ。それでみんなのまえてみせたよ。みんながおいしそう、おいしそうといったけど、せんせいが、たべたらあかんといって、みんなわかったといったよ。

どろんこあそびをしたよ。あしぶろをりょうとくんとたくとくんとりみちゃんにつくったよ。

あしぶろで、みんなとたのしくおふろごっこができてよかったね。みずが、すこしぬるかったみたいだけど、みんなのたいおんで、みずからおゆにちがついたのかもね。

どろだんごをつくったよ。だいせいこうだったよ。

こんどつくる時も「どろだんご」だいせいこうだといいですね。

れすとらんごっこをしたよ。どろだんごのうえにはっぱをのせたよ。

れすとらんごっこ、たのしそうだね。どんなめにゆうがあるのかまたおしえてね。

どろんこあそびをしたよ。ぶうるをつくったよ。かわのかあぶがけずれたよ。

どろんこあそび、たのしそうだね。よかったね。

どろんこをあそびしたよ。ぶうるをつくったときに、ばけつにみずやるのおもしろかったよ。でも、ふくとずぼんとぼんつぬれたよ。

どろんこあそびたのしくてよかったね。きょうは、あたたかかったから、すこしぬれてきもちよかったかな。

(2) 本時の学習

①目 標

砂や土、水を使った遊びを考え、みんなで楽しく遊ぶことができる。

②評価規準

- ・泥んこ遊びに関心を持ち、進んでいろいろな遊びをしようとしている。
- ・友だちとかかわりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。

③展 開

学 習 活 動	支 援 と 評 価
1. 各自の活動をする。 ・山を作る、川を作る、泥だんごを作る、など自分の作りたいものを作ろう。 ・身の回りのものを使って遊ぼう。 トレー ペットボトル プリンカップ お皿 木の葉 など ・友だちの作っているものも見に行こう。 ・困ったときはみんなで相談しよう。 2. 発見したこと、楽しかったことを発表する。 3. 後片付けをする。 ・力を合わせて片付けよう。	・砂や土の感触を楽しませたい。 ・一人で作る子、友だちと協力して作る子がいるが、それぞれの思いを大切にして活動させたい。 ・水や身の回りのものを使い、より楽しい活動をさせたい。 ・道具を安全に使っているかに気を付けて巡視する。 ・どんな活動をしたのか子どもたちに聞き意欲付けをする。 ・トラブルが起こったときは、仲間で相談して解決させたい。 <評価> 泥んこ遊びに関心を持ち、友だちと協力したり工夫したりしながら楽しんで活動しているか。 ・友だちの工夫にも目を向けさせたい。また、友だち同士のかかわりも大切にしたい。

③授業記録

☆授業の日は、朝からたくさんの雨が降り、本時も大雨の中の授業となった。

○砂場で「おおきなおやまをつくるよ」グループ

☆「プリンを食べながら富士山を見る。」という活動をしたかったようである。

・IとKaは、テントからぼたぼた落ちる水をペットボトルに集めるのに夢中。

Ka:「水道の水のところへ行くより近い！」

・Iは話しかけられても動けないほど、ペットボトルの口と水滴が落ちるところを合わせてじっとしている。

そのうち、Kが反対側に移動して集め始める。

Ka:「こっちのほうが（水が集まるのが）早い気がする。

Iちゃん、こっちへおいでよ。」

・Iも同じ向きになって、また水を集め始める。

Ka:「ほらね。こっちの方がたくさん、すぐ集まるやろ。」

I:「うん、ほんと。」（その後、ずっと水を集めるのに没頭。）

・Taは、二人が水集めをしている間、一人で待っている。
持ってきた器を出してみたりする。

・H先生が、「今日、みんなはお水を集めるの？」と聞く。

K:「そうだ。プリンをつくろう！ああ、手がよごれちゃう。カップがきたない。」

・カップの汚れが気になり、ペットボトルにためた水を使って手を洗ったり、
カップを洗ったりする。

Ka:「便利でしょ。水道のかわり！手も洗えるよ。」

・カップでプリンを作る。Taもまねをしてプリンを作る。

Ka:「Iちゃん、Taちゃん、お山つくってー。」

・Iは、水集めに没頭後、雨の中を走り回る子どもたちを見て、グループを離れ、
そちらへ行ってしまう

・Ka自身も、汚れるのが気になるらしく、なかなか山を作ろうとしない。

隣の「滝グループ」が溜めていた水に泡がいっぱいできていた。I先生から、
「泡をプリンにのせるとおいしそうだね。」とアドバイスをもらい、二人は、
自分の作ったプリンにそっと泡をのせる。Kaは、横に添える感じにした。

Ka:「わー、おいしそう！本物みたい。ホントの生クリームや。」

・Taもニッコリする。

・H先生が、「お山はいいの？」と尋ねた。

Ka:「そうだ！プリンができて、富士山見られないよー。Taちゃん、つくろう！」



- ・H 先生が、滝グループの作業中に寄ってきた土を両手でそっと集めて「これだけで、こんな小さなお山になったよ。」と見せると、

Ka:「もっと大きいのにするの。」

- ・大胆に、手で砂山を作り始めた。Ta も加わる。二人で、「もっと、もっと！」と大きな山に仕上げていった。
- ・山の周りに、滝グループから水が流れてきた。



Ka:「山の周りに水が通ってる！」(山の周りの途中で水が溜まって流れない。)

Ka:「あれ！なんで？あっ、ここをもっと掘ったらきつと行くよ。Ta ちゃんも掘って！」

- ・二人で流れが止まっているところの下を掘る。水が山の周りをぐるりと流れるようになった。

Ka・Ta:「やったあー！」

Ka: (滝グループの子たちに)「ねえねえ、うちとつながったよ。」

- ・その後、滝グループがホースの水を勢いよく流したりして、一緒に楽しむ場面も見られた。

○砂場で「おおきいたきをつくるぞ！」グループ

Sa: ホースを持ってきて、山の周りに水を流す。
水を流しながら、水と一緒に土を流して掘っていく。

Ry: 流れに沿って、手を使って水と土を流す。

Sa: 流れを手で曲げて、カーブを作る。

Ko: ホースの先を指でつまみ、水の勢いを強める。
ホースを土に少し埋めて固定する。

T: 何作ってるの？

Ko:「海になった。失敗。」

Go: 山の周りに水を流す。その後、運動場へ行く。

Sa: 砂山を作る。

Mi: 水と一緒に土を流すのではなく、土だけを掘って外へ出す。

Sa: 水の上にできた泡をさわって遊ぶ。

Ko: ホースを持ち、先を二つに割って、水を飛ばす。(水の勢いを試している。)

To: 雨水をペットボトルに溜め、山の周りに流す。泡あそびをする。

Ma:「Ko くん、どこ掘ったらいい？」



・大きな砂の山と合流する。

Ko：一人でずっとホースを持って山にかけている。

T：「水をかけるとどうなるの・」

Ko：「消える。」ホースの力でトンネルを掘ろうとするが、失敗する。山の中腹から水をかけたため、山が二つに分かれてしまう。

T：「少しお手伝いするよ。」

(水の力で掘れた分だけホースを土の中に入れていく。)

・いつの間にか、Ma、Sa が戻ってきて、トンネル作りに協力している。

Ma：「ホース貸して。」

Ko：ホースを貸す。

Ko：Ma が使い終わったので、またホースを持つ。ホースを土に埋め、滝のようになる。

○砂場で「おんせんをつくるよ」グループ

Ku：ペットボトルをテントの雨水が落ちてくるところに持って行き、雨水を溜めようとする。

SK：一人で一生懸命、穴を掘って温泉作りをする。

Ku：ペットボトルに溜まった雨水を穴に持っていくがなかなかいっぱいにならない。

SK：小さい穴を大きくしようと頑張って掘っている。

Ku：Sa と一緒になって穴を掘り始めた。

大きくなった穴に、隣の滝グループから流れてきた水を入れたり、ホースを貸してもらったりして温泉を作り始めた。



○土の山①で「とんねるをつくりたい」グループ



A：「トンネルを作る前に、川を作ってるんよ。」

A：ホースを持って、土を掘る。テントの中で一人で黙々と活動する。山の中央に溜まった水を横に流すようにする。後半から、Ni とトンネル作りを始めた。

Ni：前半は、テントの外に出ていた。後半から、テントの中でAと一緒にトンネル作りをする。

「お山つくって!」「ちっちゃいからもっと大きいをつくろ。」「おうちみたい。」

などと言いながら活動していた。

活動後の弁当箱やスコップをきちんと片付けていた。

Ba：テントの外で活動。

○土の山①で「ふねながしとどうぶつづくり」グループ

☆初めから運動場で遊んでいる子が多く、テントの中には殆ど来なかった。

Ai：ホースの水をペットボトルに溜める。

Ni：「ホース貸して。」

Ai：「無理。」

T：「ホース貸してって言ってるよ。

どうしよう？」

Ai：「交代です。」

T：「交代するの？えらいね。

バケツを使っていいよ。」

Ai：「はい。」ホースを渡す。

Ai：水溜りに入って、「おお、気持ちいい。」

Te：テントに入って来て「いい考え思いついた！」カップを持って出て行く。

・AiとMiは、何度も運動場を往復し走り回る。(段々走るスピードも速くなる。)
(水しぶきも自分に飛ばなくなる。)

・Aiは、滑り台に水をかけ、滑ってみる。水をかけて、RyやBaにかける。

Mi：テントに帰ってきて、「掘ってみよう！」「何かかたい。掘れやん。」



○土の山②「コーヒーぎゅうにゅうとだんごやさん」グループ

No：運動場の池の方によく行っていた。

・他の4人(Me、Ku、Si、Mo)は、テントのところでその役になりきって頑張っていた。

「コーヒー牛乳、コーヒー、シャカリキアイス、コーラ、ブラックコーヒー、冷たいコーヒー牛乳、豆コーヒー、メロンアイス、野菜のシャッキリ、アイスのゼリーもあるよ！」

・草をぬいて、「野菜のシャッキリ」

・テントに来る先生方に飲んでもらっていた。

・理科室からの水道の水で冷やしていた。

・MoとNoがメロンの形の器のことでもめた。Moが「私が持っていたメロンの器をNoがとった。」と言う。Noは「滑り台のところに置いてあったから使った。」と言う。話を聞いていくと、Moが使っていた器だったが、いらなく



なったので滑り台のところに置いたのだということだった。それを見つけた No が使おうとしたのを見た Mo が「私のだ!」と言ったのだ。Mo と No に話をして、「それなら、No ちゃんがだれも使ってないから使ってもいいと思っても仕方がないね。Mo ちゃんは、それを今から使いたいの?」と話し、解決することができた。

・後片付けも、協力して早くできた。

○グループ活動の後の話し合い

☆藤棚の前辺りで話し合い。まだまだ雨と水溜りを楽しめたかった子たちは、みんなから少し後ろのところにある水溜りの中にわざわざ座っている。

C: もう終わりなん?

C: もう一回やりたい。

C: まだ、やるー。

T: ねえ、今日はみんな雨降って残念って言うけど、ラッキーだったね。

今日、発見したこと教えてください。

Ka: やねから水をもらえたよ。

C: めちゃめちゃすごいことやん!

Ku: I 先生が、泡をのせたらいいって言うてくれて、やったら本物みたいになったよ。

Si: コーヒー牛乳やさんだけど、初めは、普通の色だったのに、色が変わってきた。

Mo: これ(みかんシャーベットの入れ物)に入れたら、ほんまのみかんみたいになった。

No: サッカーゴールのところが深かったよ。

T: 本当にそうだった? 浅いところや深いところがあったの?

みんな行ったの?

じゃあ、みんなで行って確かめてみよう!

(担任と子どもたちで、運動場の水溜りの浅いところから深いところへと走って移動する。サッカーゴールのところで止まる。)

C: ほんまや。Ta ちゃんの言うとおりのや。

C: うわあ、ふかあ!

T: どうして、ここ深いんかな?

C: いつもね、ここは、掘れてるみたいやから。

C: 滑り台の着地地点やもん。



C: ここでねえ、サンダル浮いてたで。

T: なるほど、だからここ、深いんだね。 今度は、砂場へみんな来て！

T: 滝ができたね。これ、作った人？

Sa: ホースで水を流して作りました。

C: うわあ、ほんまや。流れてる。

C: 本物の滝みたい。

C: うまいこと作ってるなあ。

・K 先生が、傘でテントを押し、
大量の水が落ちる。

C: わあー。

・子どもたちは、大喜び。

C: もう一回やって！

T: じゃあ、また続きは今度にしようね。

Mi: 今、やりたい。6時間目でやりたい。

T: この後はなあんだ？

C: お片付け！



④考 察

本時の学習は、前日から降り続いた雨につきるといっても、過言ではない。

通常であれば、このような天候では、授業はしないであろうと思われる。

とにかく、運動場は一面ぬかるみ、そこここに大きな水溜りがある。水溜りというより、まるで運動場が池のような状態になっていた。その上、まだまだ雨が降り続けている。

子どもたちは、本時をとて楽しみにしていたものの、この状況では活動は無理なのではないかと朝から諦めかけていた。先生方が、1年1組のみんなのために、テントをたててくださっているから大丈夫だということを告げて、本時に臨んだ。

雨の中子どもたちが濡れないようにと、藤棚の近くへ集まり、本時の活動のめあてと活動の際の約束について簡単に話し合いをした後、各グループの活動に入った。

指導者には、子どもたちは狭いテントの中では活動が思うようにできないのではないかという不安と、逆に池のような運動場を見て、自分たちが決めた遊びやめあてを忘れて自由に遊んでしまうのではないかという不安が心の中にあった。

活動を始めた子どもたちは、今までの泥んこ遊びになかったものに驚き飛びついた。バケツやじょうろを持って水を汲みに行かなくても、テントからどんどん落ちてくる雨、まずこの雨を集めることに興味をもったようだった。ペットボトルを持って、雨が落ちてくる箇所を見つけ、そこでじっと待つ。面白いように水が溜まってくる。テントのどの部分から多くの水が落ちてくるのかに気付き、早くたくさん集められる場所を探し始めた。(授業記録「おおきなおやまをつくるよ」グループのKaやIの気付き)

「おおきなおやまをつくるよ」グループのTaは、自分から話しかけることが苦手で、どろんこになるのが嫌だった子どもだ。本時でも活動に入りにくいであろうと心配していたが、Kaの「もっと、もっと。」や「Taちゃんも掘って！」などの言葉に触発され、楽しく活動することができ、Taの「やったあー。」にながることができたと思われる。また、H先生が支援してくださったことも大きい。

「おおきいたきをつくるよ」グループのKoは、テントの中でずっとホースの持ち方と水の勢いを確かめながら、山に穴をあけようとしていた子どもである。ホースを指でつまんで勢いをつけ、トンネルを作ろうと工夫していた。なかなかうまくいかなかったが、根気よく何度も何度も繰り返し、自分の思いを達成しようとして没頭する姿が見られ大変嬉しく思った。Saも、本物の滝に近いものを作ろうと何度も工夫を重ね、山の上部にホースを入れ、ホースに土をかぶせ見

えなくすることで本物の滝のように作ることができた。

「コーヒーぎゅうにゅうとだんごやさん」のグループでは、色々な飲み物やアイスを作り、参観して下さった先生方にも飲んでいただいたり、食べていただいたりしていた。同じグループ内の関わりだけでなく、参観して下さった先生方に働きかけ、お客さんになってもらったのはとても良かった。研究授業ならではの関わりができたと思われる。また、草を採ってきて、「野菜のシャッキリ」という新しいメニューを考えると、他の子にも教えみんなで共有できたのは、良かった。

「ふねながしとどうぶつづくり」のグループの子どもたちは、自分たちが考えた遊びを忘れて、池のようになった運動場へ飛び出して行った。ある程度予想はしていたものの、一瞬どうしようかと戸惑った。しかし降りしきる雨の中、泥んこになって走り回り、遊びに没頭し浸りきる子どもたちの姿を見て、子どもたちに任せて見守ることにした。

「なかなか前に進まへん。」「歩きにくいー。」「ビーチサンダルが脱げてしまう。」と言いながら走る子どもたち。脱げたビーチサンダルを見て「浮いた。浮いた。」と叫ぶ子ども。泥の中に足が入り「足が抜けない。重い。」と言う子。少しずつ水の力に気付いていったようだった。そして、ビーチサンダルを脱ぐと走り易いことに気付き、はだしで走り出した。直にぬかるんだ運動場を走り、その感触を楽しんでいた。また、運動場の池の中にも、浅いところと深いところがあることに気付いている子もいた。活動後の話し合いでそのことが出されたとき、池のような運動場を走り回っていない子、水の深さを体験していない子のために、みんなで運動場を一緒に走ることにした。指導者が先頭を切って走ることで、思いっきり雨の運動場を体験させたいと思ったのである。

そして、実際に浅い場所から深い場所に移動し、深い場所はどのようなところなのかについて話し合った。子どもたちは、深いところは日頃から穴を掘ったようになっていること、もともと低いところだということも発見していった。

本時の活動中にも、抽出児を中心にいくつかトラブルが生じた。例えば、AiとNiのホースの貸し借りの「ホース貸して。」「無理。」という場面では、指導者がそのことに気付き、「ホース貸してって言ってるよ。どうしよう?」という言葉かけにAiは、「交代してするよ。」と答えることができた。また、MoとNoの器の取り合いの際は、双方の話を聞き解決することができた。友達に泥をかけられお尻が濡れたと泣きながら訴えてきたBa。話を聞くと、自分が最初に泥を投げたらしい。「これくらい大丈夫。大丈夫。」と言ってポンとお尻をたたくと、すぐに立ち直って活動にもどった。

友だちと一緒に活動していく中では、当然トラブルも発生する。その都度、指導者がそれに気付き支援していくことが大切だと痛感した。

本時では、一緒に山を作ったり、走ったり、水を集めたり、草を採ってきて作ると良いなどの情報を交換したりしながら、友だちと関わり、夢中になって活動することができた。何度も何度もやり直し、どうすれば良いのかと考えながら活動する子どもの姿も見られた。

また大雨の中、運動場を思う存分走り回り、泥の感触に触れ、水の力に気付いていった子どもたちの姿があった。本時では予定していない活動であったが、具体的な活動や体験そのものが目標であり、内容であり、方法であるとされる生活科においては、思う存分泥んこ遊びに浸れた活動は、とても有意義であったと考える。

(3) 本時以降の学習

○昨日の続きをしよう

本時の学習後、子どもたちは、「まだまだやりたい」という気持ちでいっぱいだった。片付けを済ませた後、教室に戻ってきた子どもたちに、「また、続きしようね。」と言うと、子どもたちは、一斉に「明日、やりたあい！」と叫んだ。けれど、お家の人に「汚れても良い服」を用意してもらって本時の活動をしたので、翌日の活動はちょっと無理かなと思った。それに、明日の持ち物などの連絡帳をすでに書いてあった。「明日までに汚れても良い服、用意できる？お家の人困るよ。みんな、お家の人をお願いできるの？」と尋ねてみた。「うん、できる。できる。大丈夫。お母さんにちゃんと頼むから、お願い！明日やりたい。」と言い切る子どもたち。「でも、連絡帳にも書けないよ。それでも、忘れずに持って来られるの？」と、しつこく聞く私に「大丈夫！！絶対忘れない！！」と子どもたち。そこまで言うのだったらと、明日泥んこ遊びの続きをしようということになった。

そして、翌日。誰一人として「汚れても良い服」を忘れている子はなかった。日頃忘れ物をしてしまう子も、きちんと持ってきている。子どもたちのやる気のすごさとお家の方の協力に頭が下がった。

喜び勇んで運動場に出た子どもたち。水も随分引いて殆ど水溜りもない。どんな活動をするのだろうと思いながら見ていると、なんと、子どもたちはグループに分かれて、自分たちの決めた遊びに取り掛かったのだ。昨日の続きで滝を作る子、温泉を掘る子、トンネルを作り直す子。昨日運動場の池を走り回っていた子たちも、発砲スチロールのトレイで船を作ったり、土でウサギを作ったりし始めた。昨日思う存分雨の中の遊びを楽しんだ子どもたちは、その活動に十分満足感を味わったのだろうと思った。



おいしそうなケーキができたよ！

よいしょ！よいしょ！
大きなお山を作ろう！



すごい！川や滝！それに富士山まで
できたよ！



トンネルがだんだんできてき
たよ。もうちょっとだ！



みんなで協力して作ると、早くできる
よ。

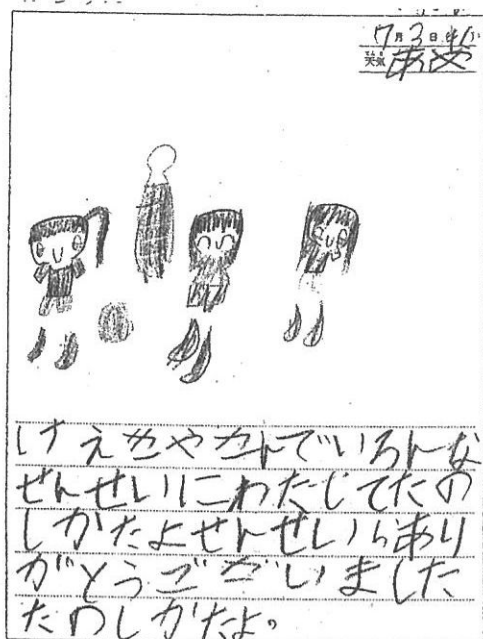
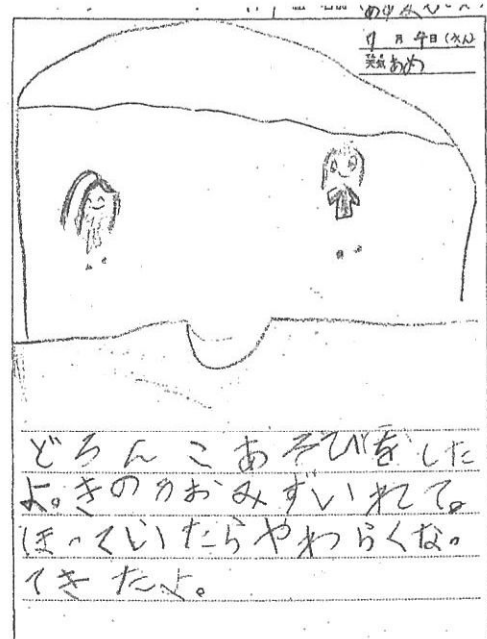


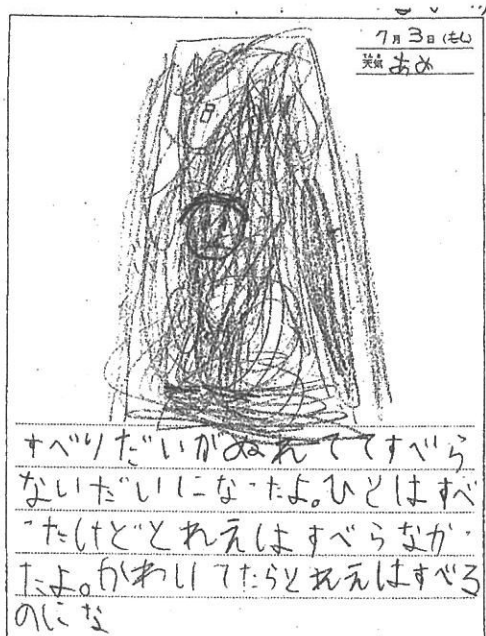
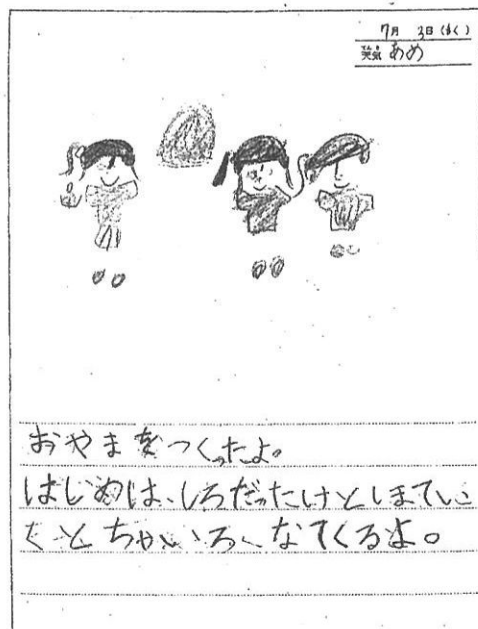
たくさん水が流
れてきて、良か
ったよ。

川と温泉を合体させよう！

第3次 楽しかったね

泥んこ遊びで楽しかったことや大発見したことを「はっけんカード」にかいて発表した。「はっけんカード」にかいた内容は、やはり大雨の中の泥んこ遊びのことだった。





7. 授業を終えて

朝の会の「泥だんご」から発展した土・砂・水を使つての泥んこ遊びの学習は、子どもたちにとって本当に楽しく、生き生きと活動することのできる單元だったと思われる。

泥だんごを作る活動では、初めのうちは砂場に行き、砂を掘り、その中に水を入れて混ぜだんごを作る子どもたち。ぎゅっと手で固めるとだんごができた。

しかし、その砂だんごはお皿にのせようとするにつぶれるし、そっと置いておいても時間が経つと壊れてしまう。どうしてもつるつるで壊れない泥だんごを作りたいと思った子どもたちは、もう一度泥だんごの作り方を考え直した。

その過程で、砂と土の性質の違いに気付く、泥だんご作りには砂より土の方が向いていることを発見していった。つるつるぴかぴかの泥だんごを完成させた子どもたちの顔は、本当に泥だんご以上に輝き自信に満ちていた。

泥だんご作りから発展した泥んこ遊びでは、砂場に大きな穴を掘り、そこに水を溜めていく子、深く掘って川を作る子、土の山にトンネルを通そうとする子など、段々と活動のスケールも大きくなり大胆になっていった。これらの活動を通して子どもたちは、自然に、一人で作るより友だちと力を合わせて作った方が効率的であることや楽しいことを体感していった。何より、恐る恐る裸足になって砂場に入ろうとしていた子どもが、自分たちが作った「プール」に足を伸ばして座ったり、遊びに夢中になり、汚れることを気にせずじょうろで水を流し込んだりする姿が嬉しく頼もしく思われた。

「おはなしれんらくちょう」を通しての、泥んこ遊びについての親子のやり取りも大きな成果を感じた。たどたどしい文ではあるが、それを媒体に親子の会話が生まれ、子どもが生き生きと活動し喜ぶ姿を感じたお家の方が、一緒に泥だんご作りに挑戦してくれたり、遊びの材料や服装にも協力してくれたりしたことは、大きな成果と言っても良いだろう。

本時では、予期せぬ大雨が子どもたちの活動をより活発にし、大胆なものになった。池のようになった運動場を思い切り走り回ること、文字通り自然の面白さに気付く、みんなで泥まみれになって遊ぶことができた。その活動を通して子どもたちが体全体で得たものは、水の力、土や泥の感触、或いは水の深さの違いと土地の関係など、これからの子どもたちの自然科学への興味・関心につながるものと思われる。また、黙々とホースで水を流し続け、水の勢いと土を掘る力について観察し、自分の調べたいこと（その子の問題）について追求しようとする子どもの姿が見られたことも嬉しかった。

またこの時期の子どもにとって「見立てる」活動も大切である。トンネルやだんごだけでなく、コーヒーマシンやプリン、シャッキリ野菜など「おいしいよ。」と言いながら作ったり、「どうぞ。」とお客さんに差し出したりする子どもたちは、本当に楽しそうだった。

本単元「どろんこあそびをしよう！」における活動の素晴らしさは、本時を終わろうとしたときの「まだまだしたい!」「6 時間目もしよう!」という子どもたちの言葉、翌日泥んこ遊びの時間に誰一人として服装を忘れなかったこと、また本時の活動中に子どもがつぶやいた「他の学年の子、かわいそうやなあ。こんなに楽しいのに!」の言葉に集約されているように思えた。